
年明けに・・・

貂寡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

年明けに・・・・・・・・・・

【Nコード】

N3439D

【作者名】

貂寡

【あらすじ】

年明けの番組を見てカウントダウンをして・・・そうやってふつうの年明けを望んでいたのに・・・年が明けた瞬間に電話がかかってきた・・・非通知の男の人との関係が今日始まる・・・

（前書き）

今日、年末なので・・・思い出した話です・・・

年末・・・弟がトイレの掃除を頑張っている中・・・
私は、今こうしてパソコンで遊んでいます・・・
外では、カラスが年末の寒い風の中寒がりもせずに・・・
大いに騒がしく鳴いています・・・
冬休みが始まりもう1週間たちましたが・・・
いまだに受験勉強は、せず・・・
高校受験は、良いのか大丈夫なのかと親に忙しく言われる毎日です・・・

あと、6時間で年が明けて・・・新しい年が来ます・・・

携帯を握りしめる・・・

俺は、今年年の瀬が迫るこの日に彼女に振られた・・・
彼女と俺は気が合わなかったらしい・・・
俺的には、良い感じと思ったのにな・・・
こんな年の瀬に振られるなんて・・・
なんてついていない男なんだろう・・・

私は、年明けを目指して??今年越しそばを作っています・・・
おいしくなるように、おだしは鰹から取りました・・・

隠し味にオイスターソースをちよつと入れて完成です．．．
年越しそばは、おいしい方が好きです．．．
だけど私のは、あまりおいしくありません．．．
何がいけないのでしょうか．．．

俺は、年越しそばを食っている．．．
母さんが作るそばは、のびていて．．．まずい．．．
だけで食べないと文句を言われる．．．
今、夜9時年明けまであと3時間．．．
そうだ良いこと考えた．．．
勝手に考えた携帯番号で電話をかけてみよう．．．
もしかしたらいい人にかかるかも．．．
まあ、運に賭けるのだが．．．

私は、携帯電話で遊んでいます．．．
けっこうメールとかするとお金がかかりますが．．．
メールは、みんなとのコミュニケーションできるツールだと思います．．．

今では、携帯電話で小説を読めるまでになりました．．．

けっこうその小説にはまっています・・・

女の子と、男の子のはかないラブストーリーかと思うと

実は、B系だったり・・・

はまりにはまってちよつとその作者に詳しくなったり・・・

好きになつたり・・・

読書は前から好きでしたが、この小説にあつてもつと楽しく有意義な時間が増えていくのです・・・

今は、11時・・・あと1時間もすれば・・・年明けで・・・

俺は、電話番号を考えていた・・・

何番にしようか・・・押して見るがかけたりはしない・・・

ただ押すだけ・・・そして12:00になったらその番号を押す・・・

・・・

そして賭けてみる・・・

12時まであと10分眠気に襲われながらも私は、こたつで紅茶をすすっています・・・

甘くておいしい、ミルクティーです・・・

あと5分になります・・・

もうテレビでは、カウントダウンとか言つて炎が燃やされていきま

す．．．

3・2・1

テレビで12時の時報が鳴る．．．
考えていた電話をかけてみる．．．
ここがかかれば、今年の運は、最高．．．

3・2・1．．．

「あけましておめでとうございます．．．」
ここでテレビの中の女の人が明るく言う．．．
ケータイ電話は、友達にメールを送るためにフル活用する．．．
『あけましておめでとう．．．今年もよろしくね．．．』
そう書いて送ろうと送信を押そうとすると電話がかかってきた．．．
・

俺の今年の運は、最高になりそうだった．．．
呼び出し音が三回鳴る．．．

非通知だけど出てみる……

「もしもし……」

女の人の声だった……最高だ……

「もしもし……すみませんあけましておめでとうございます……」

男の人の声が聞こえた……

「あけましておめでとうございます……ところであなたは、誰ですか……??」

「おれは、かいがまゆう貝釜有と申します……突然かけてすみません……」

「はあ……わたしは、策と名乗っておきます……まあ本名じやありませんから……」

「あの……俺自分で作った電話番号で書いてみたんです……びつくりしました……かかるなんて……」

「はあ……そうですか……ところであなたは何歳ですか?」

「おれは、14で、中3です……あなたは」

「いちよう15にしておきます……」

私は、怪しいなと思いました……

自分で作った電話番号で私にかかってくるはずがないと……

「あの・・・またかけていいですか?」

彼が聞いてくる・・・1回会ってみるのも良いかもと思う・・・

「あの・・・何所の人ですか・・・」

「俺は、札幌です・・・」

「私ですよ・・・もし良かったら明日札幌神社で会いませんか・・・」

私が誘い出してみる・・・

化けの皮をはがそうと・・・

「いいですよ・・・初詣ついでに・・・」

「では、私は白いロングマフラーをしていきますので・・・あなたは、右手に赤いリストバンドをしてきて下さい・・・」

「はい・・・では、また明日・・・って今日ですよね」

「はい今日です・・・午後3時には、行きますので・・・」

そういつて電話を切る・・・

今日の午後3時・・・電話の彼女と会えるのだろうか・・・

私は、無茶な約束をしてしまったと思った・・・

私は、ロングマフラー彼は、リストバンド・・・どう考えても彼の方が

不利なのに・・・

午後三時まであと10分

あの電話をかけてから、興奮して寝られなかった・・・

右手に赤いリストバンドをつけて神社に行く

神社までは徒歩5分だ・・・

電話の彼女に会ってみたい・・・

私は、マフラーを巻いて神社に行く・・・

予想以上に人が少なくてやばいと思う・・・

だけど、電話の彼を見つけることができた・・・

人混みは、それほど無い・・・

彼女は、マフラーを巻いているはずだが・・・

マフラーを巻いている人が多すぎて切なくなる・・・

彼女から声をかけてくるのを待つしか手が無くなった・・・

私は、リストバンドの彼を見つけて観察をする・・・

けっこう良い格好をしている・・・
そしてなかなかっこよい・・・
私は、声をかけてみることにした・・・

「あのっ・・・貝釜有さんですか・・・あの・・・」
「はいそうですけど・・・策さんですね・・・」

そうして私たちは、親しくなり・・・
高校受験も無事に終わり
二人で同じ高校に行くことになった・・・
これも運命という物なのだろうか・・・

俺は、彼女と今日今年が終わろうとしている中・・・
12時になったら電話をしようと出番を待っている・・・

私は、
彼からの電話を待っていた。
.
.
.
.
.

（後書き）

今年も良い年になりますように・・・
ちなみにこの話の彼女は、いい年になったようです・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3439d/>

年明けに・・・・・・・・

2010年11月29日10時52分発行